

# 日本地質学会2013年度第2回理事会議事録

日時：2013年9月13日（金） 14：30-16：30

会場：仙台市戦災復興記念館 第2会議室（4F）  
（仙台市青葉区大町2丁目12-1）

出席役員 理事(36名)：天野一男 安藤寿男 伊藤 慎  
井龍康文 石渡 明 市川八州夫 ウォリス・  
サイモン 永広昌之 太田泰弘 大津 直 笠  
間友博 狩野彰宏 川端清司 川辺文久 小嶋  
智 坂口有人 斎藤 眞 佐々木和彦 柴 正  
博 高木秀雄 竹内 誠 田村嘉之 竹下 徹  
内藤一樹 中澤 努 平田大二 保柳康一 星  
博幸 松田博貴 宮下純夫 村田明広 矢島道  
子 山口耕生 山本高司 脇田浩二 渡部芳夫  
欠席役員 理事(14名)：伊藤谷生 小山内康人 清川  
昌一 芝川明義 高橋正樹 西 弘嗣 久田健  
一郎 藤林紀枝 藤本光一郎 松田達生 宮田  
隆夫 向山 栄 山路 敦 山田泰広  
監事(2名)：青野道夫 山本正司

その他出席者 事務局：橋辺

\*成立要件：理事総数50名の過半数26名、本日の出席者 36名で本理事会は成立。

\*議決：出席者の過半数19名

議長：松田（博）理事

\*書記2名の選出：村田理事，太田理事

## 報告事項

### 1. 執行理事会報告

1) 6月8日第2回執行理事会，7月13日第3回執行理事会，9月13日第4回執行理事会の要点が報告された（斎藤理事）。

・文科省意見募集（パブリックコメント）：科学技術・学術審議会測地学分科会「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について」（中間まとめ）に関する意見募集」について部会に対応を依頼する（斎藤理事）。

・岩波書店から出版予定の超地球史年表（著者：清川）出版に関する件は，地質学会との関わりを明確にする形で出版を検討する（山口理事・斎藤理事）。

・「地学を楽しく」（電子出版物，吉田勝編集代表）の進捗状況が説明され，査読が終了，アマゾンキンドルブックストアでの出版準備中にあることが報告された（山口理事・坂口理事）。

### 2) その他

・Island Arc 編集状況等の報告（伊藤理事）  
Island Arc編集状況等の報告がなされ，特集号やレビューなどの投稿が呼びかけられた。

### 2. 理事からの報告

### 1) 125周年事業準備委員会（矢島理事）

・125周年事業の趣旨（文）や記念事業計画〔記念式典（5月10日頃），会員向け事業，一般向け事業等〕について報告，説明がなされた。ロンドン地質学会の200周年記念事業を参考にしながら，ロゴ作成，特別号の発刊，雑誌におけるエピソード紹介，Geology of Japanへの125周年の追記，フォトコン入賞写真の地質解説書，ジオパーク関係の書籍（DVD）の刊行などの企画案が説明された。社会的提言書の作成や国際学会における事業アピール，メディア対策，予算確保に関する意見もだされ，今後，125周年事業に向け，予算に応じ詳細な計画作りを進めることが報告された。

2) 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会（：地質地盤情報活用検討委員会）の報告として，地盤情報活用のための緊急提言を行うことが報告された（斎藤・中澤理事）。また法整備を推進するロビー活動を積極的に行う組織作りも検討中であることが小嶋理事より報告された。

3) 行事委員会から仙台大会について以下の報告がなされた（星理事）。

・本大会から国際化対応のための英語版プログラムの掲載や，セッションの充実を図るためのハイライトの掲載等を試みたことが報告された。また630講演（札幌大会と同等規模）が予定されており，一般市民向け講演会や巡検，懇親会なども準備していることが報告された。

・来年2014年は9月13日～15日，西日本支部の鹿児島大学，2015年は中部支部の信州大学，2016年は関東支部の日本大学において開催予定であることが報告された。

4) ジオパーク支援委員会より下記の報告がなされた（高木理事）

・韓国のチェジュ島で開催された第3回アジア太平洋ジオパーク大会において，隠岐ジオパークの世界ジオパークネットワーク（GGN）への加盟が認定された。

・9月24日の日本ジオパーク委員会において，JGN申請10地域の認定の可否と，GGN申請4地域の推薦（最大2地域）の可否が決定される。

### 3. 理事会メール審議の議決事項について

メール審議（2013/06/12）で，以下の4件が承認されたことが報告された（松田議長）。

#### 1) 選挙管理委員の選出を承認

阿部なつ江（JAMSTEC），田口公則（生命の星地球博），納谷友規（GSJ），藤井幸泰（深田研），山口飛鳥（東大）

\*その後の選挙管理委員互選で委員長に阿部なつ江

氏が選出された。

- 2) 学術大会講演申込異議申し立てに関する処理機構規則の改正を承認  
任意団体からの規則の文言を一部修正。
- 3) ロンドン地質学会との学術交流協定締結を承認  
\*なお、承認後、日英交流400年にちなみ双方がプレスリリースを行うこととなったため、学術交流協定書の日付を8月8日に改めて交わされた。
- 4) 電子図書の刊行について：吉田勝編集代表「地学を楽しく」の刊行を承認

## 審議事項

1. 地質学雑誌投稿編集規則の改正  
近年は、地質学雑誌の紙質のクオリティが向上し、かつてのように図版を特別に扱う必要が無くなったことや、別刷り代清算時の事務業務の簡素化等から図版廃止の規則改正が審議され、拍手にて承認された。
2. 「県の石」の選定について  
アメリカ合衆国の州の石に習い、県の鳥や、県の木、県の花などと同様に、県のシンボルとなる石を選定することが会長より提案された。先行事例の確認や公募の必要性（例、地質100選）、さらに選考規準（支部の活用など）や選定方法の確認（永広理事・小嶋理事）、加えて出版物の有無の確認や学会としての出版の可否などが審議された。選定にあたっては各支部での検討や意見が重要であるとのことから、

会期中に開催の支部長会議で各支部に趣旨説明と協力を要請することとした。また、「県の石」に関する普及書を作成すること、ホームページ上で意見を募るなどの準備を開始することが承認された。

3. その他
  - 1) 2014年度総会開催日程について  
2014年度連合大会の日程が早まったことで、地質学会の総会は、会計処理の関係などから連合大会と関連付けることは難しい状況となった。地質学会が独自の日程で開催すること、また開催日は5月24日前後の開催を軸に、執行理事会で検討することが承認された。
  - 2) 各賞選考委員会（竹下理事）から、各賞に推薦される論文が少なく、選考活動が低調になっているとの問題提起があり、その対策が審議された。各部会が責任を持って必ず一つは論文を推薦するなどの対策をとる必要があるという意見が出され、専門部会への協力要請をはじめ各賞への推薦を活発化させることが重要であるとの確認がなされた。  
\*最後に西理事からの伝言として、井龍理事より、仙台大会の成功に向け、宮城教育大学、山形大学、東北大学が協力して準備にあたっている旨の報告が付け加えられた。

2013年11月5日

(氏名・押印の掲載省略)